

名証

IRエキスポ2023

9/ **8** FRI • **9** SAT

－会社案内－



株式会社J-MAX

01 会社概要 会社概要/事業概要/国内海外拠点
客先別構成比率・主要顧客/トピックス/拠点別受注車種

02 決算概況 連結決算概況/セグメント別/業績予想

03 新中長期経営計画 中長期ビジョン/基本戦略
中長期目標値/キャッシュフロー

04 投資家の皆様へ 株主還元について

01 会社概要 会社概要/事業概要/国内海外拠点
客先別構成比率・主要顧客/トピックス/拠点別受注車種

02 決算概況 連結決算概況/セグメント別/業績予想

03 新中長期経営計画 中長期ビジョン/基本戦略
中長期目標値/キャッシュフロー

04 投資家の皆様へ 株主還元について

社 名

株式会社 J-MAX (旧 : 丸順)

創 業

1952年7月1日

資 本 金

19億5,086万円

本 社

岐阜県大垣市上石津町

従 業 員 数
(2023年3月)

316名

・
1,811名
(連結)

上 場 市 場

東京証券
取引所

スタンダード市場

・
名古屋証
券取引所

メイン市場

代 表 者

齊藤 浩

事 業 内 容

自動車用
車体プレス部品・
精密プレス部品製造
各種金型設計・製作
治具・検具設計・製作



金型製造

自動車部品製造



金型事業

金型



センターピラー

治具



PCUケースアッシー

検具



フロントピラーインナー

「世界最速製造」を目指し、全ての生産設備に最も適合する金型・治具・検具を製作
⇒ 金型は販売先でのプレスにて良品を保証（機械加工だけではなく整備まで請負）

金型の製造工程

工程設計

CAE解析

設計

CAD/CAM

機械加工

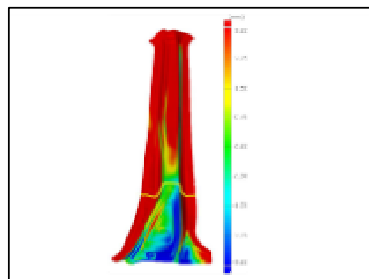
仕上

トライ

完成

CAE

Computer Aided Engineeringの頭文字をとったもので、製品開発段階にコンピューター上でシミュレーションを行えるツール。



保有設備

大型5軸高速NC加工機



1500tトライプレス



溶接治具とは…溶接作業の補助ならびに溶接技術の向上のために用いられる補助具。



検具とは……製品の品質管理のために用いられる補助具。

部品事業

- 高度な生産技術とICTを活用したデジタル技術の融合により、高品質・高効率な生産体制を構築
- スーパーハイツ材や鉄以外の異素材の加工も可能

車体骨格 >

フロントピラー
センターピラー等

< 安全補強部品

バンパービーム等

< 電動化部品

バッテリーケース
バッテリーカバー
バインドバー等

< 機能部品

フードヒンジ
テールゲートヒンジ
ステアリングハンガービーム等

精密部品 >

プラネタリキャリア
クラッチドラム等

ボディ部品

- 車体骨格部品をはじめとする部品を量産
- 車体骨格・安全補強部品・機能部品

車体骨格



安全補強部品



機能部品



精密部品

- 寸法等の製品精度要求の高い部品を量産

四輪車トランスミッション関連部品

クラッチ
ドラム



クラッチ
ピストン



プラネタリ
キャリア



クラッチ
プレート



四輪車クラッチ周辺部品

ホルダー
ダンパー
スプリング



オートマチックミッション(AT)車において、エンジンとCVTミッションの間にある部品。

二輪車エンジン周辺部品

パルサー
プレート



エンジンの回転数を測定するセンサー関係の部品。

電動化部品

- 増加していく電動自動車向け部品を量産

四輪車バッテリー関連部品

バッテリーケース



バッテリーカバー



バインドバー



車載用電池パックのバッテリーモジュール構成部品。

J-MAX の一貫生産体制

研究開発

加工・量産の難易度が高い材料の生産技術など次世代で求められる自動車部品の研究開発に取組

CAE技術

強度・剛性評価

シミュレーション技術

画像処理技術

ツール開発

様々な研究開発

金型・治具・検具設計、製作

豊富な経験とITを融合した高度な設計技術と加工技術により金型・治具・検具の設計、製作を行う

超高張力
鋼板対応

超大型
部品対応



1500tトライプレス

部品生産

高度な生産技術とICTを活用したデジタル技術の融合により、高効率・高品質な自動車部品を量産

高効率



ロボットディスタッকার
(3000tTRFプレス)

高品質



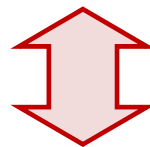
新汎用溶接ライン

『スーパーハイテン材』の採用が「環境負荷低減」と「安全性向上」を実現する

「環境」×「安全」を
重視した商品の提供

市場ニーズ

ボディ骨格を構成する各部品の
軽量化×高強度化×環境配慮



スーパーハイテン材

～クルマの環境対策と安全性向上～

衝突安全性の向上

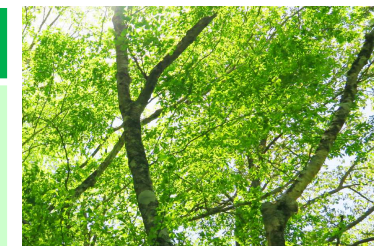
命を守る

衝突安全性の
向上



環境を守る

車体の軽量化
による燃費向上



軽量化による低燃費への貢献

製造時のCO₂排出量削減

環境を守る

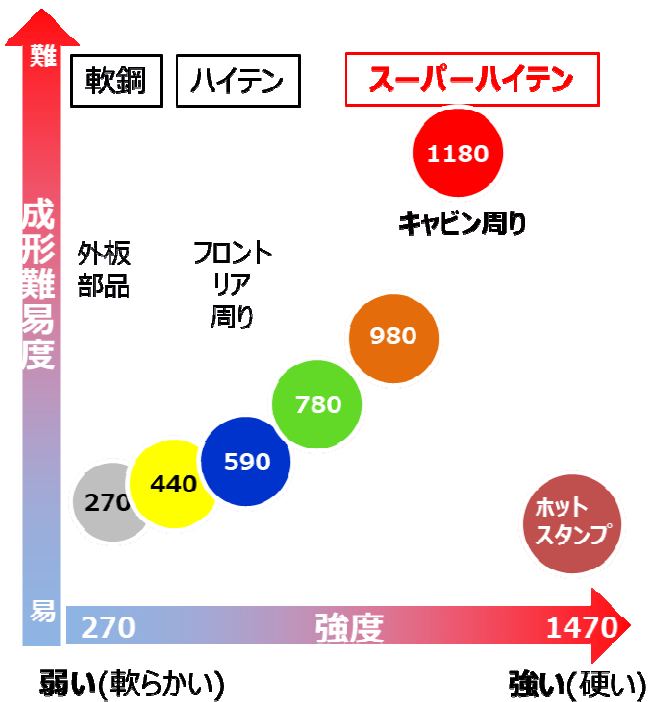
CO₂排出量削減
による脱炭素社会
への貢献



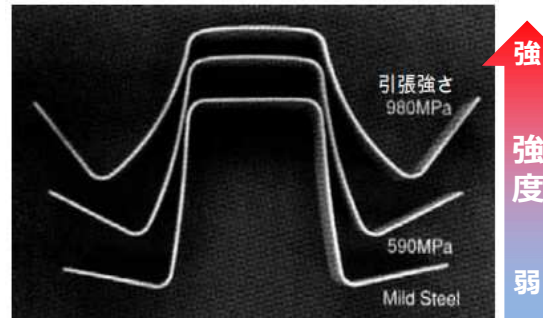
事業概要⑦ 当社の強み（スーパーハイテン材の成形）

11/38

◆スーパーハイテン材の成形難易度



スーパーハイテン材のハット曲げにおけるスプリングバック



出展：豊橋技術科学大学 森譲教授論文より

スプリングバックとは

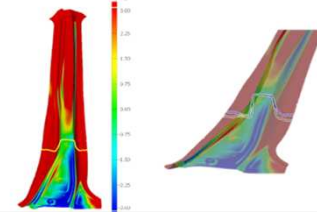
鋼材が成形した形から元の形に戻ろうとする現象

強度が高いほどスプリングバック特性により“図面通りの寸法”を実現する難易度は高くなる。

スーパーハイテン材は、強度が強いが、**成形難易度が高い**

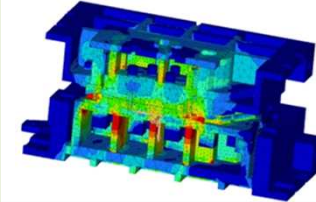
当社の技術（強み）

バーチャル技術



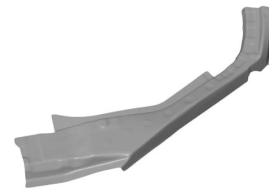
高精度なスプリングバック予測
スプリングバック抑制技術

金型技術



高強度・高剛性な金型の製造技術

成形技術



多種多様な形状の成形性評価を実施

長年のノウハウの蓄積により
当社独自の技術を確立

スーパーハイテン材加工における高い技術力のもと受注拡大を推進

国内拠点

12/38

国内：7拠点（駐在事務所含む）

本社・上石津工場



岐阜

栃木開発センター

栃木



鈴鹿工場

三重



浅西工場

岐阜



養老工場

岐阜



岡山駐在所

岡山



岡山工場（建設中）

岡山



海外拠点

13/38

海外：6拠点（出資会社含む）

武漢丸順社
※2003年10月設立

中国



BMI社(出資会社)
※2007年7月資本参加

インド



タイ・マルジュン社
※1994年7月設立

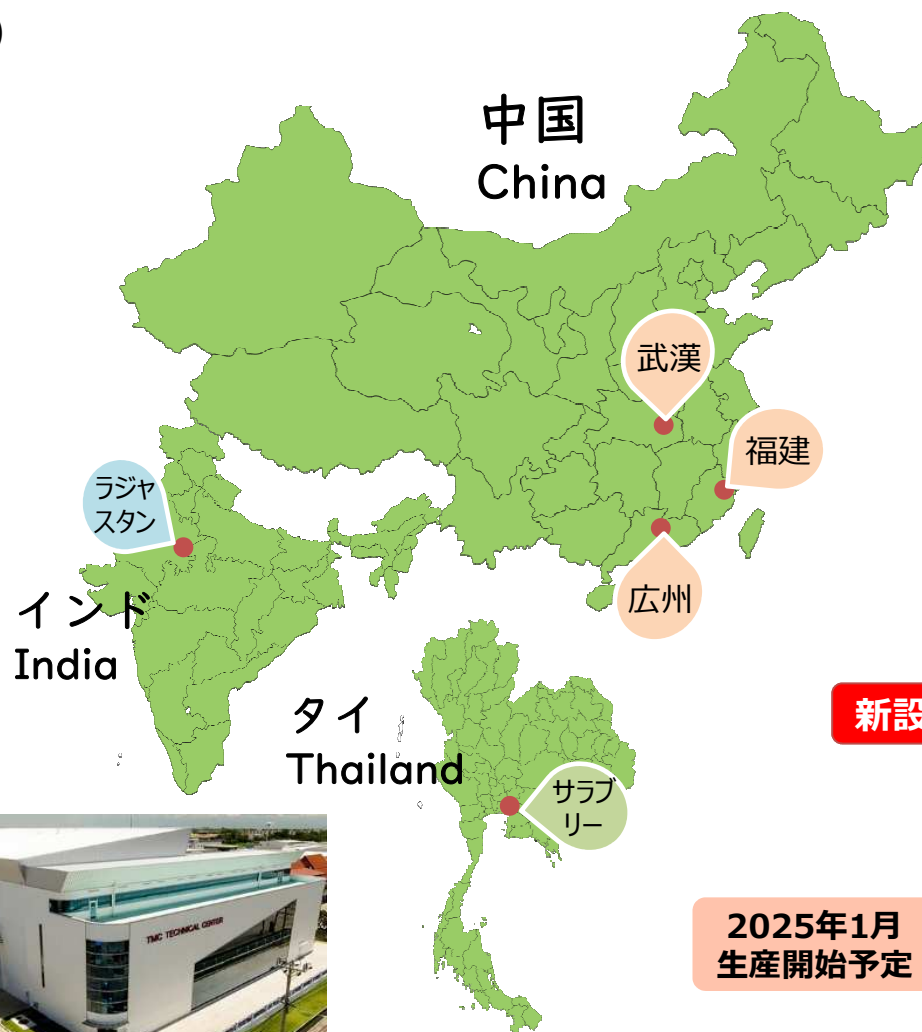
タイ



【ノンケイ工場】



【サハ工場】



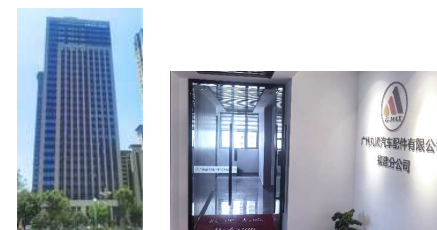
広州丸順社
※2001年11月設立

中国



福建開発・営業センター(9F)
※2022年8月設立

中国



新設

福建丸順社
※2023年4月設立

中国

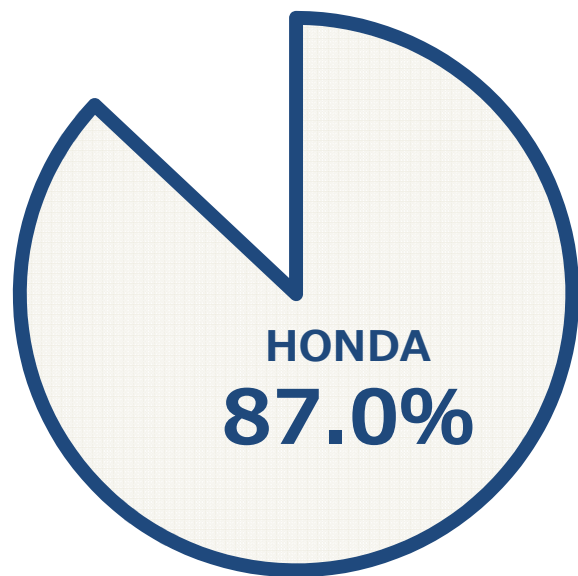


【工場完成イメージ】

2025年1月
生産開始予定

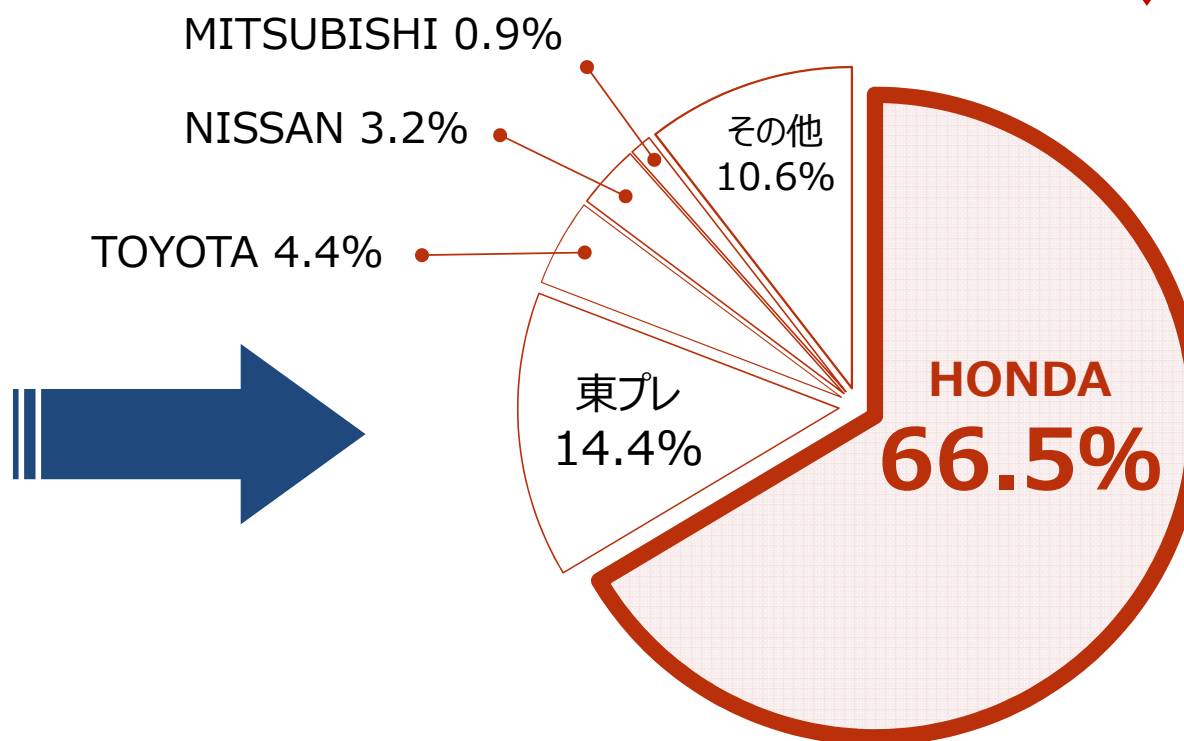
2014年度 実績

HONDA売上比率 **87.0%**



2022年度 実績

HONDA売上比率 **66.5%** ↓ DOWN

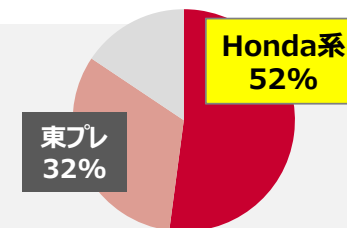


HONDAを中心としながらも、東プレをはじめ様々な自動車メーカー、部品メーカーと取引を実施。バランスの取れた客先構成へシフト。

◆拠点別主要顧客

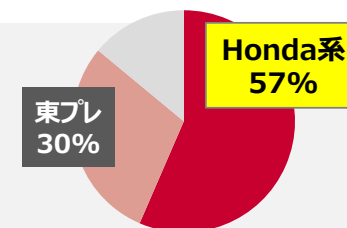
日本

本田技研工業 / 東プレ / ゲスタンプ
プライムプラネットエナジー & ソリューションズ
アイシン / トヨタ車体 / ブルーエナジー / フタバ産業 / 武蔵精密 / 日産車体



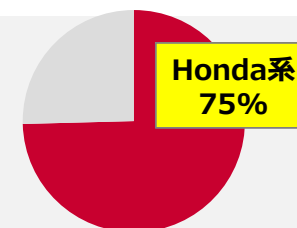
タイ

Honda Automobile (Thailand) / Thai Honda Manufacturing
TOPRE(Thailand) / Suzuki Motor (Thailand)
MUSASHI AUTOPARTS (Thailand) / DAICEL SAFETY SYSTEMS(Thailand)



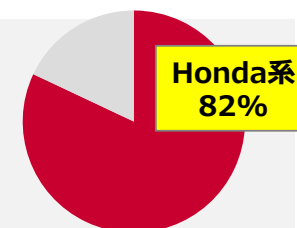
広州

広汽本田汽車 / 東風本田汽車 / 广汽三菱汽車 / 广汽丰田汽車
寧德時代新能源科技股份有限公司 (CATL)
伟巴斯特车顶系统 (Webasto)



武漢

東風本田汽車 / 鄭州日産汽車 / 法雷奥集团 (Valeo)
吉利汽車 / 广州小鹏汽車



新規受注車種

2023年6月にトヨタ自動車株式会社より発売されたアルファード/ヴェルファイアの部品を受注し量産を開始。



トヨタ自動車 アルファード

受注部品群

成形難易度の高い
スーパーハイト材
を採用することにより
安全性の強化、
軽量化に貢献



スーパーハイト部品を中心に、ボディ骨格部品をはじめ、内装に取り付けられる振動対策のプレス部品等、複数の客先より多岐にわたるカテゴリーの部材を受注。

また、金型メーカーとして、販売用金型を受注、納入しており、部品および金型の両面で同車種の構成に貢献。

◆直近の主なトヨタ自動車受注車種



トヨタ自動車 クラウン



トヨタ自動車 LEXUS NX



トヨタ自動車 カローラクロス

当社が得意とするスーパーハイト部品を中心に、ホンダ以外の他メーカー受注拡大を推進中

トピックス（優秀サプライヤー表彰）

17/38

2022年度に主要客先の本田技研工業株式会社（各海外拠点を含む）より**J-MAXグループ全社が優秀表彰を受賞。**



J-MAX

優良感謝賞(品質部門)
(本田技研工業株式会社)



タイ・マルジュン社

コストアワード
(Thai Honda Co., Ltd.)



広州丸順社

品質優秀サプライヤー賞
(广汽本田汽车有限公司)



武漢丸順社

優秀サプライヤー賞
(東風本田汽车有限公司)

Q（品質）・C（コスト）・D（供給）
全領域において客先より高い評価を獲得

高レベルなQCD体質のもと客先と関係強化を推進し新規受注を拡大

◆拠点別主要受注車種

J
I
M
A
X

HONDA

「N-BOX」



「FREED」



「FIT」



「VEZEL」



NISSAN

「ROOX」



「SAKURA」 (EV車)



TOYOTA

「HARRIER」



「CROWN」



「ALPHARD」



タ
イ

HONDA

「CIVIC」



「CITY」



「CR-V」



「ACCORD」



NISSAN

「ALMERA」



「KICKS」



汎用エンジン

「FUEL TANK」



#

01

会社概要

会社概要/事業概要/国内海外拠点
客先別構成比率・主要顧客/トピックス/拠点別受注車種

02

決算概況

連結決算概況/セグメント別/業績予想

03

新中長期経営計画

中長期ビジョン/基本戦略
中長期目標値/キャッシュフロー

04

投資家の皆様へ

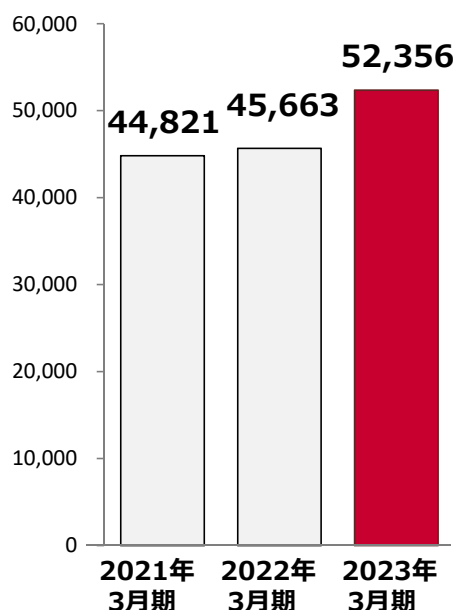
株主還元について

(単位：百万円)

売上高

52,356百万円

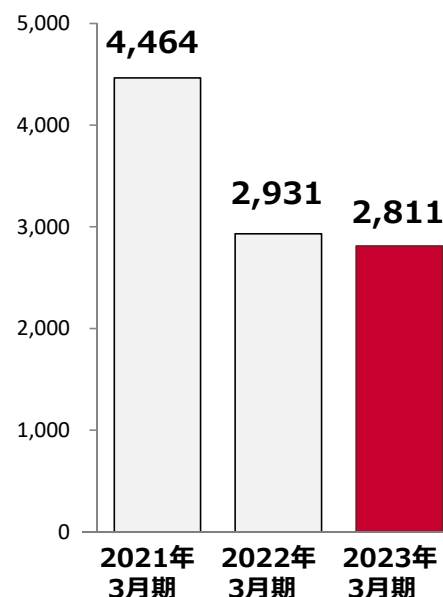
前年同期比 **+14.7%**



営業利益

2,811百万円

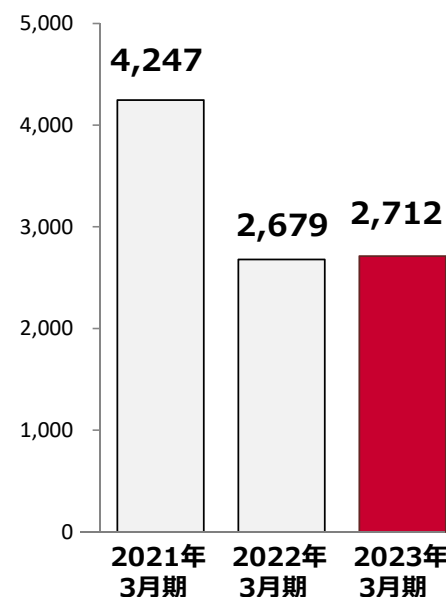
前年同期比 **▲4.1%**



経常利益

2,712百万円

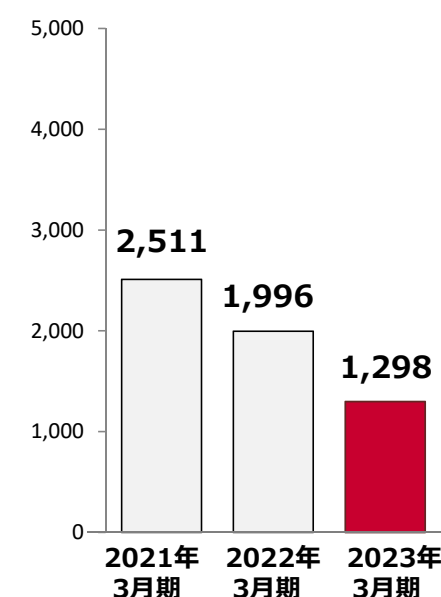
前年同期比 **+1.3%**



親会社株主に帰属する 当期純利益

1,298百万円

前年同期比 **▲34.9%**

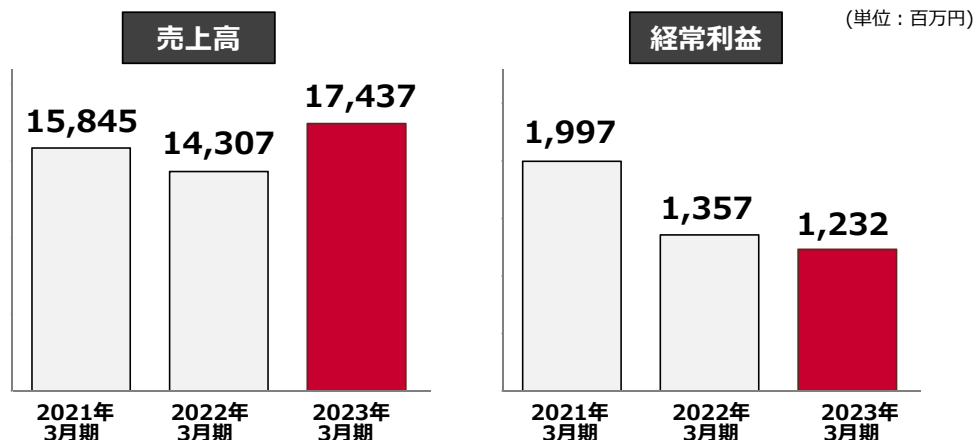


売上高は原材料高騰の売価転嫁、円安等の影響により増収。営業利益、経常利益は同等だが、
コロナウイルス及び客先の中国事業撤退による影響を特別損失に計上し純利益は減益。

セグメント別売上高/経常利益

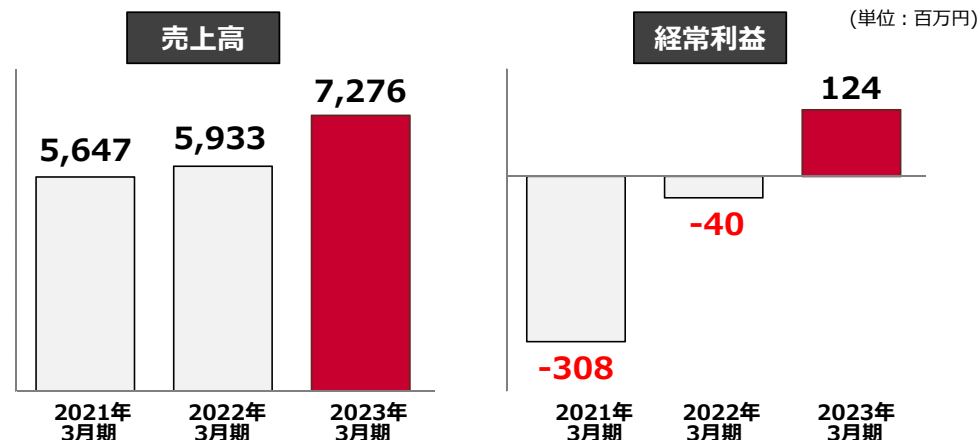
22/38

日本



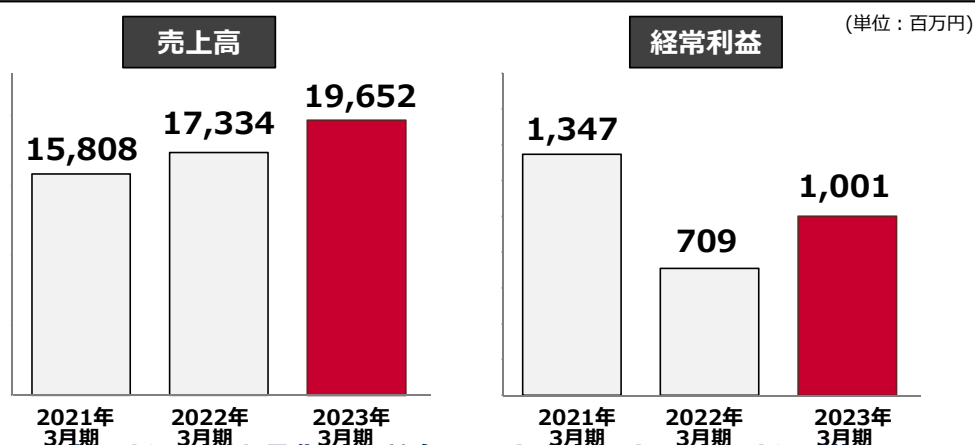
生産回復、原材料高騰の売価転嫁により増収。
原材料価格の売価反映の時期ズレ、資源価格高騰の影響により減益。

タイ



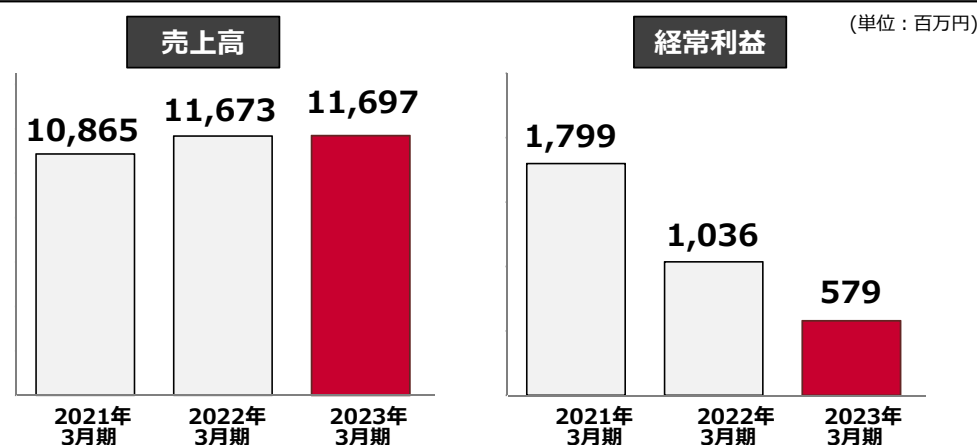
輸出向け部品・汎用エンジン部品等の生産回復、金型販売増加に加え
継続的な原価低減の取り組みにより、増収増益。

広州



減産により、現地通貨では前年と同水準。円安影響により、増収。
原価低減の取り組みに加え、金型投資費用の未回収分の回収により、増益。

武漢



減産により、現地通貨では減少。円安影響により前年同期と同水準。
売上減少に伴う固定費負担の増加、原材料高騰等の影響により、減益。

2024年3月期業績予想

23/38

【条件】	上限予想	主要客先の生産台数計画をベースに算出。下期以降中国拠点生産回復と想定。
	下限予想	中国拠点の減産が、期末まで継続すると想定。

(単位：百万円)

	2023年3月期 実績	2024年3月期 予想		増減	増減率
		下限	上限		
売上高	52,356	44,000	53,000	△ 8,356 ~ 643	△16.0% ~ 1.2%
営業利益	2,811	210	2,300	△ 2,601 ~ △ 511	△92.5% ~ △18.2%
経常利益	2,712	△ 320	1,900	△ 3,032 ~ △ 812	- ~ △30.0%
当期純利益	1,298	△ 730	1,100	△ 2,028 ~ △ 198	- ~ △15.3%
一株利益(円)	110.66	△ 63.09	95.07		- ~ △15.3%

中国拠点での減産が継続しており今後の生産動向が不透明であるため、業績予想はレンジ形式での予想とする。

01 会社概要 会社概要/事業概要/国内海外拠点
客先別構成比率・主要顧客/トピックス/拠点別受注車種

02 決算概況 連結決算概況/セグメント別/業績予想

03 新中長期経営計画 中長期ビジョン/基本戦略
中長期目標値/キャッシュフロー

04 投資家の皆様へ 株主還元について

課題

- * 売上規模の拡大(既存・新事業/新技術/新商品)
- * DX加速による業務プロセスの変革
- * サステナブル経営の推進

経営環境の変化

- * 国内の市場規模縮小
- * 中国におけるEV車需要拡大
- * 東海地区の事業環境変化

新中長期経営計画 (2023～2027年)

2018-2022
前中長期経営計画

過剰投資に伴い経営悪化
構造改革を実施

構造改革期

構造改革

経営悪化

毀損した財務体質の向上を
最重要課題に

回復期

競争力基盤の確立
財務体質の向上

2023-2027
新中長期経営計画

成長期

2023-2027
新中長期経営計画

新中長期計画は
攻めの経営へ

事業基盤拡大（M&Aやアライアンス等）
による収益確保を優先課題とする

-2030
**攻めの経営による
施策の刈り取り**

技術で夢を

-Make our dreams by Technology-

持続可能な100年企業を目指し、既存事業の技術を磨くと共に、
新しい事業への探索と挑戦で企業価値を高め、
従業員をはじめとするステークホルダーと夢を共有する。

【中長期方針】 資源配分の最適化により、強固な経営基盤への変革

【J-VISION 30】

①2030年に向けて②30年後の100年企業に向けて「**既存事業の強化**」と「**新事業の創出**」を
戦略の2本柱とし、新中長期計画を「**J-VISION 30**」とする。

1. ブランド力強化と新規顧客開拓による売上の拡大
2. 新事業確立に向けた新商品の開発
3. デジタルを駆使しプロセスを変革させコア技術を進化
4. 次世代工場の構築と新しいモノづくりへのチャレンジ
5. DXの展開加速で経営構造の変革
6. 持続的な成長に向けた事業ポートフォリオの変革
7. サステナビリティ経営による企業価値の向上

①ブランド力強化と新規顧客開拓による売上の拡大

◆ 岡山地区の売上拡大

現在、岡山地区に3車種のボディ部品を納品中

岡山工場 設立

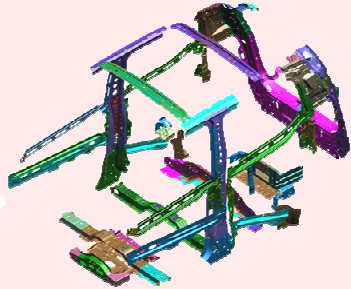
- 西日本地区での更なる**売上拡大**
- QCD向上による**競争力強化**

三菱自動車工業水島製作所 受注車種



2022-2023
日本カー・オブ・ザ・イヤー

日産自動車 SAKURA(EV)



キャビン周りのボディ骨格部品
バッテリー周りの電動化部品
を多数受注

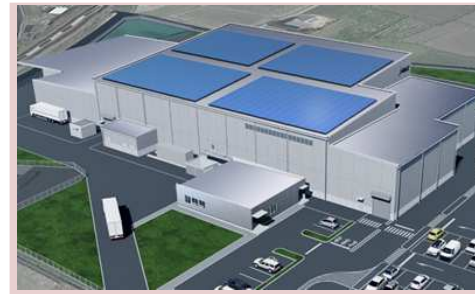


日産自動車 DAYZ



日産自動車 ROOX

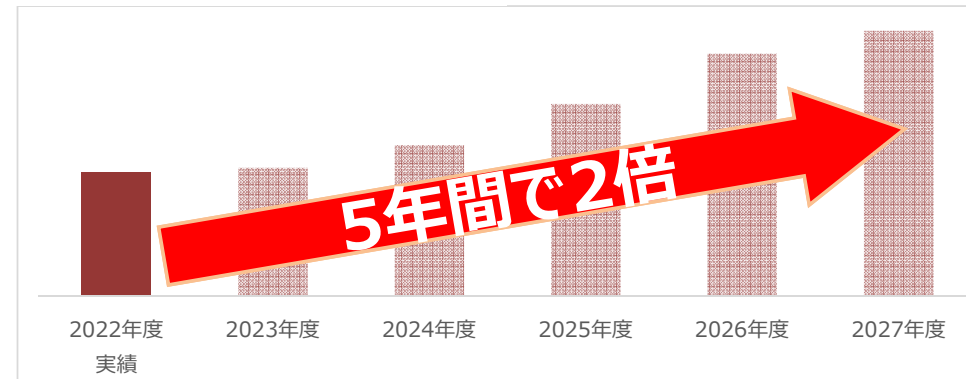
<岡山工場完成イメージ>



<2023/8/10 地鎮祭の様子>



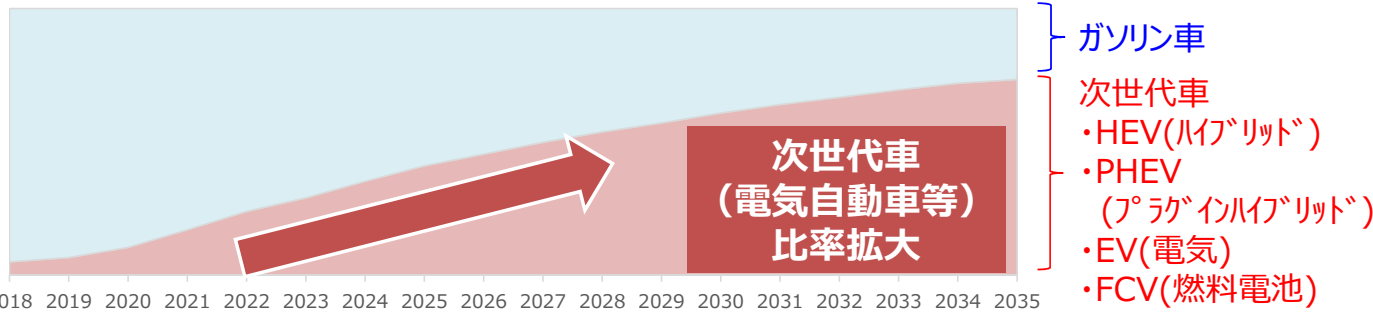
【岡山地区売上高】



中長期計画最終年度となる2027年度で
2倍の売上高を狙う

◆ 中国電動化事業の拡大

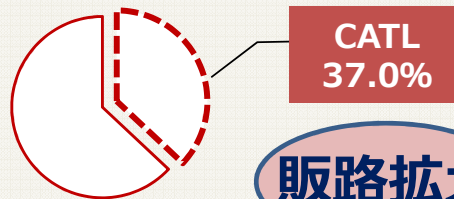
【世界自動車別の販売比率予測】



【CATLとの関係強化】

2020年～

□ 車載電池シェア上位の
CATLとの取引開始



2022年 車載電池シェア

2022年～

□ 福建開発・営業センター(9F)
設立



新型車種立ち上げの
スピーディな対応

関係強化

2024年～

□ 新プレスライン導入予定

バッテリーケースの大型化、電動化
部品の超ハイテン使用拡大に対応



【類似プレスライン】

受注拡大

2025年～

□ 新会社設立(生産開始)

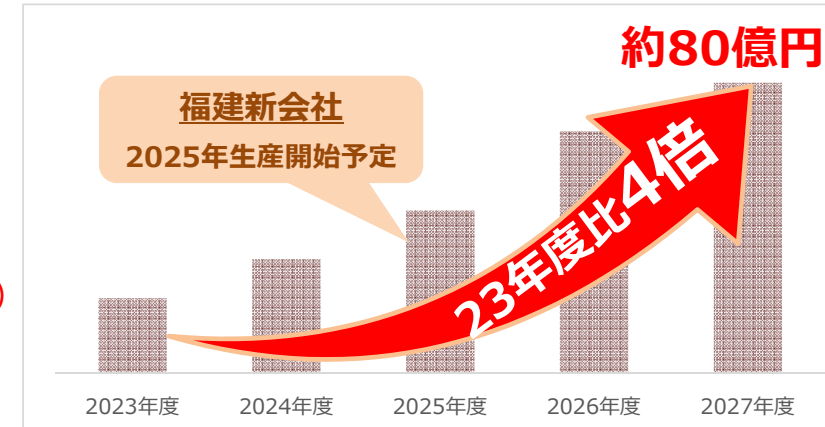
< 福建新会社完成イメージ >



投資額57億円

電動化
事業拡大

【CATL向け売上高】



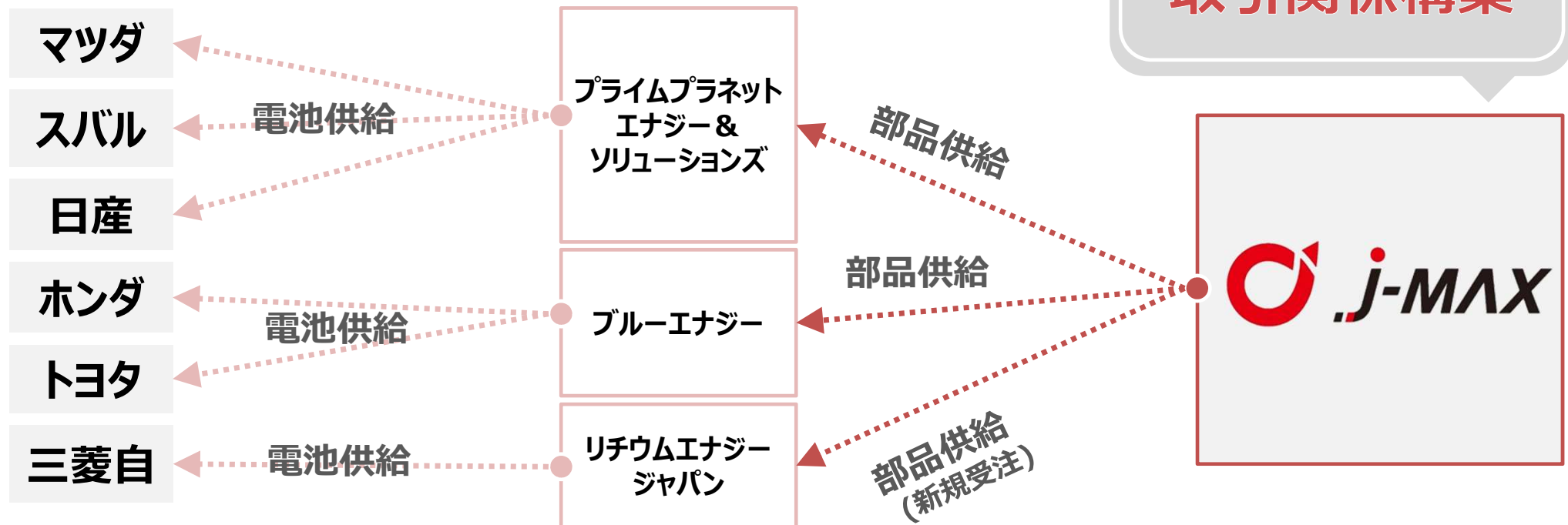
中長期計画最終年度となる2027年度で、
2023年度比**4倍**の売上高を狙う

◆ 電動化事業の拡大

【自動車メーカーと車載用電池メーカーの相関図(日本)】

■ 完成車メーカー

■ 車載電池メーカー



系列を超えて自動車完成車メーカーに車載電池を供給するメーカーと取引関係を構築
電動化事業の拡大を狙う

②新事業確立に向けた新商品の開発

◆ 研究開発の強化

軽量化

電動化

生産技術の進化

自動車領域に限定しない新商品・新事業の開発

【開発体制】

- 新商品開発
- 新事業開発

J-MAX

タイマルジュン

広州丸順

武漢丸順

J-MAX(日本)にて、グループ全体の開発を担い、
日本のノウハウを活かし競争力強化を狙う

新事業の創出

【電動化商品開発】

➤ 車載用モーター関連部品開発

電気自動車のコア部品となる

モーター構成部品の製品化に向け開発推進中

➤ バッテリーモジュール拘束体超ハイテン化開発

バッテリーモジュール拘束体部品の

1200MPa級超ハイテン化開発中

【開発費】

3 倍

前中長期(5か年)

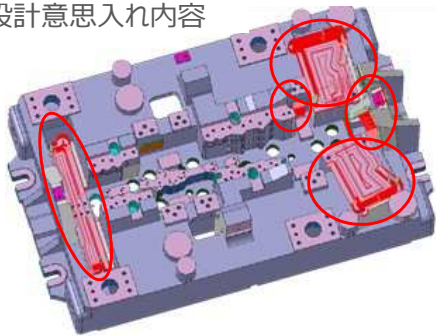
新中長期(5か年)

新事業の創出・新商品の開発に向け、研究開発強化を図る

③ デジタルを駆使しプロセスを変革させコア技術を進化

自動加工率の拡大

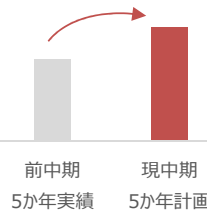
(例)
設計意思入れ内容



金型作成の成形工程において、自動加工しやすいよう予め金型設計段階にて意思入れを行うことで加工機による自動加工率の拡大を推進。

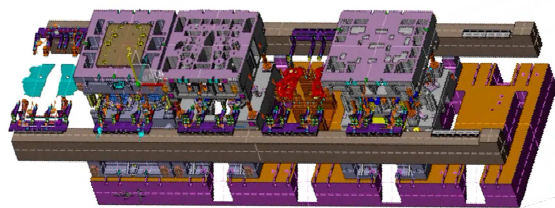
自動化率

目標: **20%** 向上



プレスラインのモーション解析強化

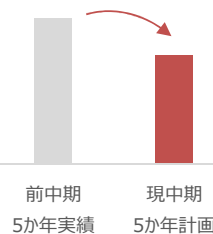
(例)
プレスラインモーション



金型設計段階にて、部品量産時のプレス機におけるプレスモーションを解析することで、量産移管時の不具合による改修工程の削減を推進。

金型事業原価率

目標: **30%** 低減



④ 次世代工場の構築と新しいモノづくりへのチャレンジ

J-MAX 上石津工場 無人化溶接ライン



削減要員

2人 → 0人

部材投入→溶接→品質チェック→パレット投入までの生産工程において人が一切介在しない自動化の推進により、当該ラインにおける**省人化、生産ラインのスリム化を完了。**

**今後も自動化取り組みを拡大し
省人化及び生産性向上を図る**

⑤ DXの展開加速で経営構造の変革

RPA(ロボティック・プロセス・オートメーション)の積極的活用による間接業務工数の削減。

RPA
人がPCで行っていた作業を記憶し、ロボットが自動で代行するツール


人が対応
経費管理
生産管理
在庫管理
etc



 改善等の考える作業は人へ
 ルーチン作業はロボットへ

**人は考える仕事
(付加価値創出)を
管理(定型)業務はシステムへ**

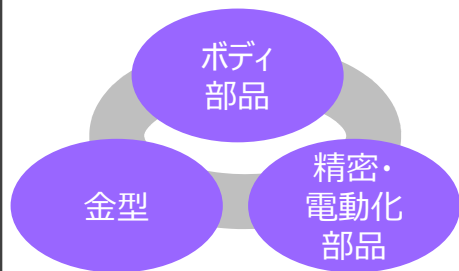
をスローガンに、業務プロセスの変革により間接業務の効率化を推進

⑥ 持続的な成長に向けた事業ポートフォリオの変革

事業、製品、販路、技術等を軸に外部資源の有効活用を図り、スピーディな企業成長を図る。

J-MAX 資源

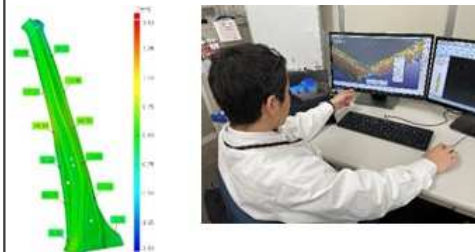
事業 <business>



製品 <product>



技術 <technology>



アライアンス
M&A等

外部資源



⑦サステナビリティ経営による企業価値の向上

◆再生可能エネルギー活用による環境負荷軽減



J-MAX本社 追加太陽光パネル



タイ丸順 太陽光パネル



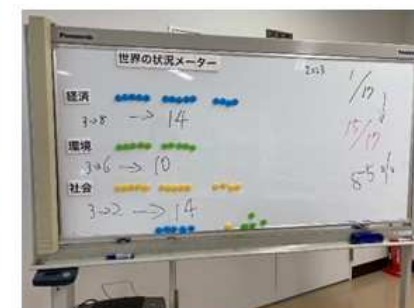
広州丸順 太陽光パネル



武漢丸順 太陽光パネル

J-MAXグループ各拠点で再エネの積極的な活用を推進。

◆SDGS研修の推進



大垣市環境市民会議様の協力のもと、SDGsカードを用いて研修会を実施。SDGsの達成に向けた意識改革の重要性を学習。

◆フードドライブの推進



昨年に引き続き今年もフードドライブを推進し、食品（段ボール7箱 計60kg）を「フードバンクぎふ」様に寄付いたしました。

特定したマテリアリティについてハード、ソフトの両面において広範囲に取り組みを推進。

新中長期目標値

34/38

◆最終年度目標値

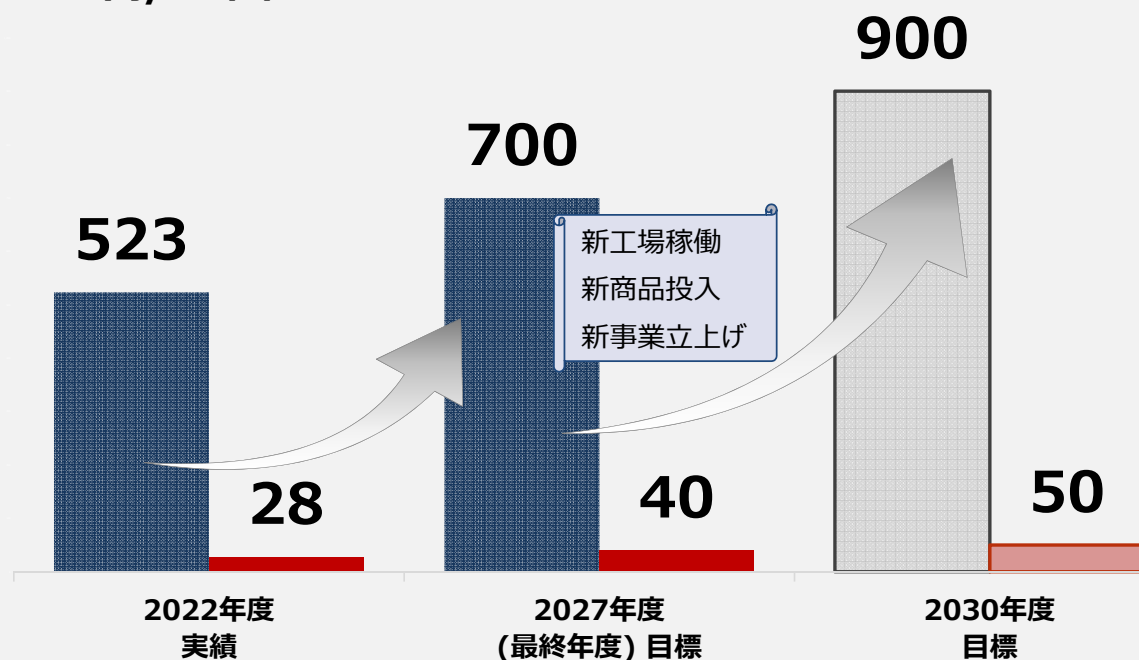
売上高
700億円

営業利益
40億円

ROA(営業利益)
6.0%

◆売上高/営業利益

(単位：億円)



◆ROA(営業利益)

5.7% → 6.0%

次期中長期は
ROE/ROIC等の新たな
効率性指標を設定

2022年度実績

2027年度
(最終年度)
目標

2030年度
目標

(単位：億円)

■既存事業の強化と成長戦略の収益貢献により営業キャッシュを創出

+367

▲348

■事業規模の拡大を最優先に捉え、将来の収益拡大に向けた戦略的成長投資を実施

5年間設備投資 約400億円

専用投資 140億円、汎用投資 260億円

主な汎用投資

岡山工場 建屋/設備（日本）

広州プレスライン、福建新会社設立（中国）

事業拡大に向けた戦略投資

▲22

■戦略投資、研究開発、M&A資金、株主還元、借入、有利子負債返済等のバランスを考慮し、前中長期の財務体質水準を維持

58

55

2023/4
期初
現金残高

営業CF

投資CF

財務CF

2028/3
期末
現金残高

01

会社概要

会社概要/事業概要/国内海外拠点
客先別構成比率・主要顧客/トピックス/拠点別受注車種

02

決算概況

連結決算概況/セグメント別/業績予想

03

新中長期経営計画

中長期ビジョン/基本戦略
中長期目標値/キャッシュフロー

04

投資家の皆様へ

株主還元について

配当の考え方

- 中長期1～2年目は経営環境変化への対応として、大型の成長戦略投資を実施。収益貢献/投資/資金調達・返済等グループ全体のキャッシュバランスを考慮し、**継続的に每期増配**することを基準とする。
- 中長期3～5年目は、成長戦略による収益拡大に合わせ**配当性向20%**を基準に株主還元を実施。

■ 期末配当

■ 中間配当

2023-2027 中長期

フェーズ1

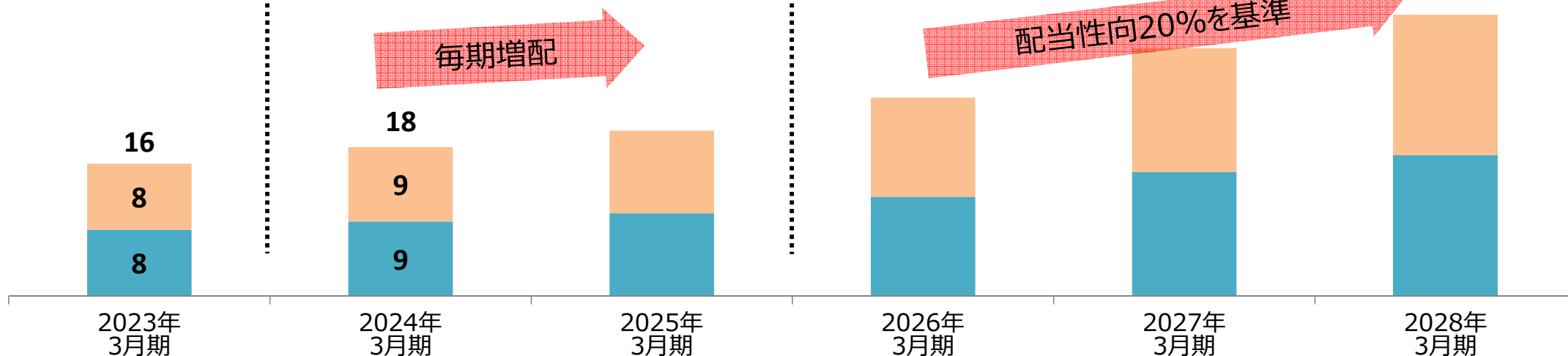
大型の戦略投資を実施
半導体供給不足等の外部環境影響

每期増配

フェーズ2

成長戦略による収益貢献
有利子負債返済、M&A、研究開発、株主還元等のバランスを考慮 (単位：円)

配当性向20%を基準



ご清聴ありがとうございました

技術で夢を

-Make our dreams by Technology-

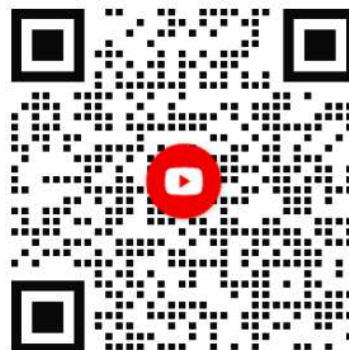
▼ WEBSITE

HP ▶ <https://www.jp-jmax.co.jp>



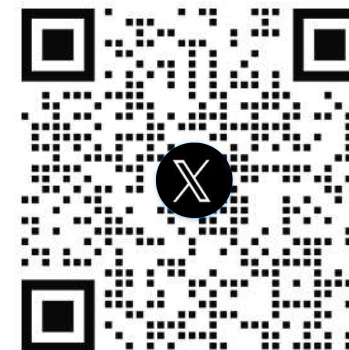
▼ OFFICIAL SNS

YouTube ▶ @J-MAX3422



▼ OFFICIAL SNS

X(旧Twitter) ▶ @J_MAX3422



この資料は、株式会社J-MAX（以下、当社）の現状をご理解いただくことを目的として、当社が作成したものです。当資料に記載の内容は、一般的に認識されている経済・社会等の情勢および当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成したものであり、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更する可能性があります。

また、将来に関する記述については、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの内容とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。

